



学校だより

# みどりの

学ぶ当事者 支える当事者 緑野小学校

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和5年5月1日

## 挨拶にも自分らしさを

校長 遠藤 昌司

新緑がまぶしい季節となりました。緑野小学校の地域は、敷地内だけでなく周辺にもつつじがたくさん見られます。校舎の2階からは北側フェンス沿いの植え込みがよく見えるのですが、咲き初めの頃には葉の緑色の部分が多かったのが、開花が進むにつれ濃いピンク色の部分が増えてきて、日に日にコントラストが変わる様子を目にすることができました。来校やお近くを通りがかった折には、花盛りの様子をもうしばらくの間ご覧いただけたと思います。春らしく過ごしやすい日も増えてきましたが、季節が逆戻りしたような肌寒い日もありますので、体調管理には十分にご留意ください。

4月の後半には児童会行事「ようこそ1年生」がありました。一堂に会することはできず、放送を通してではありましたが、在校生は温かく迎え、1年生は画面を通して仲間入りの挨拶をする場となりました。

どの学年も新しい担任のもと、新たに出会った友達とのクラスづくりが少しずつ進んでいるようで、令和5年度の緑野小学校は、順調にスタートしているところです。

昨年もお伝えしましたが、校内を回っている折、子ども達が挨拶をしてくれます。自然な感じで挨拶をしてくれる子もいれば、両手を前に添え、とても礼儀正しくお辞儀までしてくれる子もいます。普段からのご家庭でのお声掛けが習慣となっているのだろうな、と感じます。中にはじっとこちらの様子を窺いながら、あるいは恥ずかしさに何とか打ち勝つての上か、ひそやかに「こんにちは」と発してくれる子もいて、その形態はさまざまです。

先日、来客から子ども達の様子について、「相手にしっかり向き合った挨拶をする子が多いですね」とお褒めの言葉をいただきました。手前味噌ですが、と謙遜しながらも緑野小の子ども達の挨拶は素敵だと思っています、と自慢してしまいました。

3月の卒業式の折、卒業生の一言の中に「自分のままでいられる緑野小で安心できた」というような言葉がありました。皆と同じことができるようになるのも大切なことではありますが、挨拶についてはその子ならではの形で、今年度の重点目標の中の「自分から」を実践してほしいと思います。また、挨拶は人と接する上で、基本的なマナーとしてとても大切な役割があるだけでなく、自分の心が開いていることを伝え、目の前にいる相手を認め、好印象を与える行為であると言われていています。これも重点目標にある「相手をよく知り大切に」への意識を高めることにつながっていってくれることを期待しています。